

■ 腎臓移植外科 ■

当科腎臓移植外科は一階外来棟、泌尿器科の隣に位置します。1984年に全国10番目の地方腎移植センターに認定され、それに引き続き、“腎移植科”を名乗り診療を行ってきました。全国の腎移植施設の中では比較的歴史の古い科です。1985年2月に第1例目の腎移植を行い、2012年7月現在535件の腎移植を行ってきました。腎移植件数は徐々に増加し、最近では年間40件以上の腎移植を行い (Fig. 1)、全国でも6-7位にランクされ (Fig. 2)、通算でも500例を越えている全国有数の移植施設となっております。

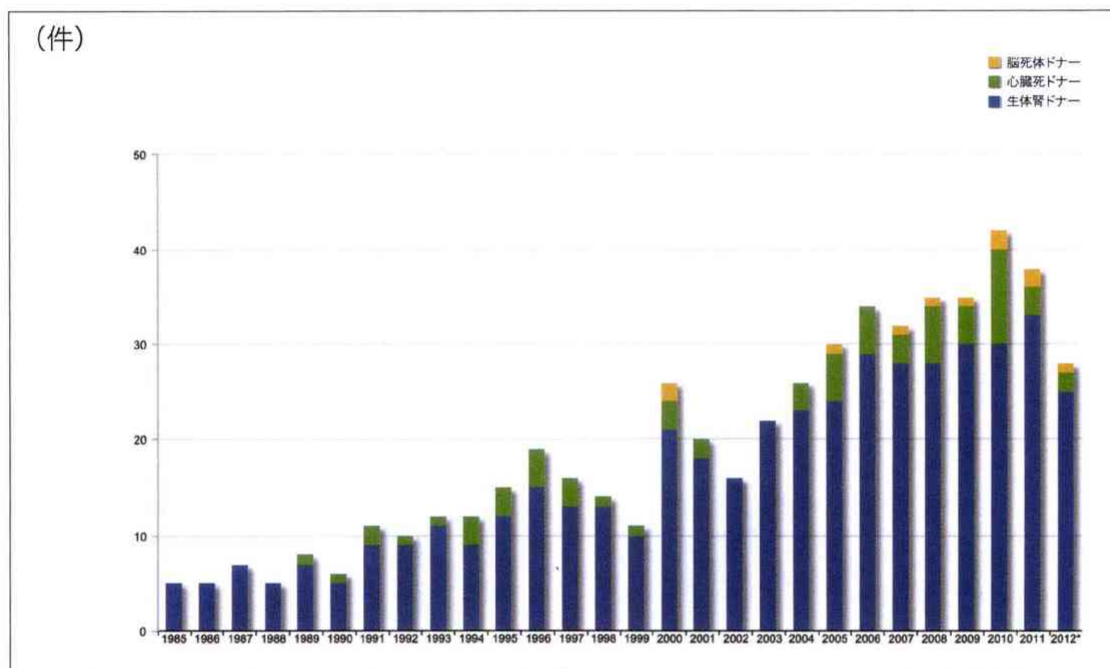


Fig. 1 当科における腎移植件数の推移。献腎移植数は年により差があるが、生体腎移植は着実に増加している。

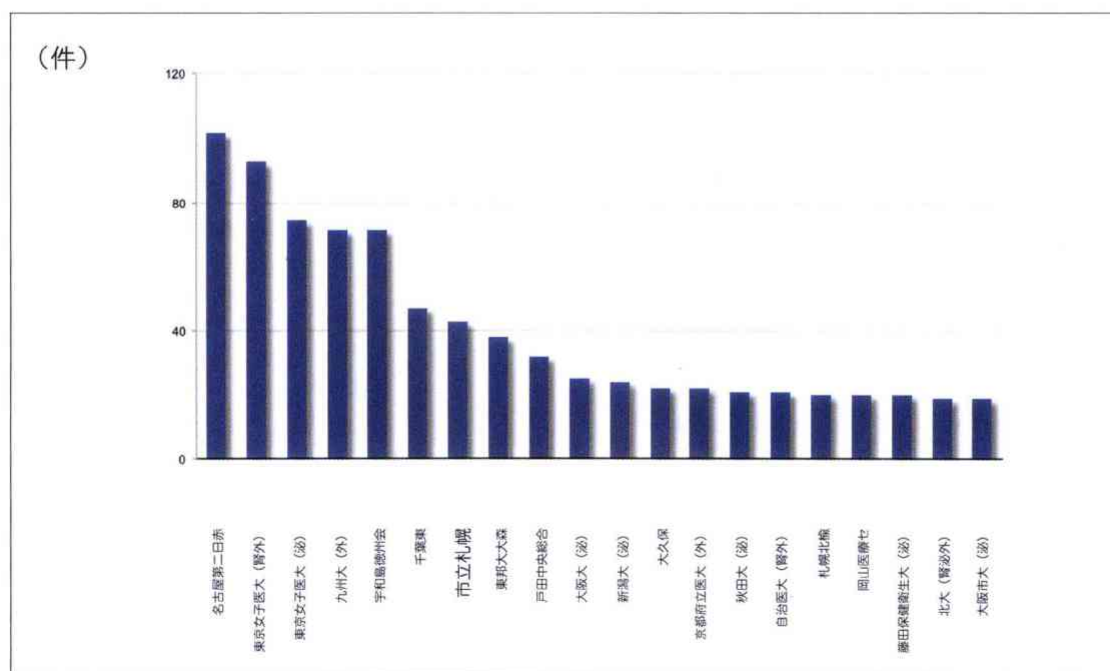


Fig. 2 本邦における2010年の上位20施設の腎移植件数。当院は6位の腎移植件数である（東京女子医は一施設とみなす）。なお本道の他の2施設（札幌北協病院、北海道大学）も20位以内に位置している。

す。開設した平野哲夫元理事が、2009年3月に当院を退職し、2009年4月からは原田 浩が責任を任せ、名称も新たに腎臓移植外科と変更しました。2012年4月からは福澤信之副医長を北大より迎え、新体制で望んでおります。目標としては、年間50件以上の腎移植の施行。移植腎生着率、患者生着率の向上をあげています。このために、術前の提供予定者、移植予定者の徹底した健康状態のチェックを厳格に行うこと、手術技術の向上、適正な免疫抑制剤管理、拒絶反応を早期に診断する厳重な臨床データ解析、さらに定期腎生検による早期拒絶反応や、潜在性腎病変の検索を積極的に行っております。さらに、おそろかになりがちな献腎登録者の心血管病を中心としたスクリーニングにも取り組む予定でおります。

腎移植はチーム医療です。これまでは非常勤医師を含む医師3人、看護師1人の外来体制でしたが、2009年4月からは新たに佐藤真澄腎移植コーディネーターが配属され、腎移植を希望する方、腎移植を受けられた方の総合的なサポート（医学的、精神面、社会面）を担当し、より密度の濃い外来の対応が可能となりました。また、平野元理事とともに当科の歴史を刻んでいただいた、鳥潟看護師が2011年3月に退職し、同4月から滝澤看護師が当科初の常勤看護師とし勤務しております（Fig. 3）。



Fig. 3 腎臓移植外科の面々。上段左から原田部長、平野非常勤医師、福澤副医長。下段左から後藤助手、佐藤コーディネーター、滝澤看護師

学術活動も積極的に行い、毎年米国移植会議での複数演題の発表、あるいは欧州移植学会、国際移植学会、アジア移植学会での発表を行い、国内でも研究会を含み年間20演題を越える発表を行ってきました。論文執筆にも積極的で、当科の成績、新たな取り組みを今後も発信して参ります。

当科ではほぼ全ての腎移植が可能ですが、全国的にも透析を経ない“医先行的腎移植”の比率の高さは群を抜くものがあります（全国平均15%に対し当科では30%に迫ります）。患者生存率、移植腎生着が透析を経た群よりも良いのみならず、透析の準備のための無駄なアクセス手術が不要、透析による生活の質の低下が避けられるため理想の腎代替療法です。是非慢性腎臓病担当医の方は、腎代替療法のオプション提示の際には腎移植も透析（血液・腹膜）と並び（というより凌ぐ）治療であることを是非患者さんに情報提供してあげていただきたいと思います。是非当科医師、コーディネーター、看護師に積極的に声をおかけ下さい。また、最後になりましたが当科では腎移植の実際のみならず、腎不全、血液浄化、感染症、心血管病、代謝病、薬物動態を学ぶことができます。研修医の皆さんの当科での研修をお待ちしております。